

中高図書館の新着図書の中からおすすめ本を紹介します。

◎アドリブ 佐藤まどか あすなろ書房

内容

フルートとの電撃的な出会いをしたユージ。必死でフルートと向き合うが、ユージは岐路に立たされていた。本気でめざしても、プロになれるのはひと握り。クラシック音楽界のきびしさを目の当たりにした 15 歳のユージの決断とは…?様々な人との出会いの中で成長するイタリア、トスカーナの小さな町に暮らす少年ユージの青春音楽小説。



◎思いはいのり、言葉はつばさ まはら三桃 アリス館

内容

中国・湖南省で文字を習うことのできなかつた女性たちが、想いをつたえるために伝承してきた「女書」をテーマにした1冊。文字を作っても伝えたい気持ちが人にはあるということ、そして苦労して作ったり習得した言葉で最初に表現するのは、人を思いやる気持ちや、幸せを祈る気持ちなのだとということ。SNS 等を使って簡単に気持ちをつたえることのできる今、想いを言葉にする喜びを改めて感じることができる。



◎ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」 山極寿一 毎日新聞出版

内容

進化の果てで、テクノロジーに疲れ、戦争に倦む。私たちが幸福を掴むためには、あと何が必要なのか。ゴリラ研究の世界的権威が人間社会の家族、団欒、コミュニケーションの重要性を多方面から解説している。動物としての人間に立ち返り、これからの共同体・国家のあり方を問い直す1冊。



◎ペンギンは空を見上げる 八重野統摩 東京創元社

内容

将来、NASA のエンジニアになりたい小学6年生の佐倉ハルは、風船宇宙撮影を目指している。そんなことくらいできないようでは NASA のエンジニアになんて到底なれないからと、できる限り大人の力を借りず自分だけの力でと奮闘する。過去に起きた事件や意地っ張りな性格もあってクラスでは孤立、家に帰っても両親とぎくしゃくし、それでもひたすらひとりで壮大な目標と向き合い続けるハル。ある日、金髪の転校生の女の子が現れて…。ハルの、夢と努力の物語。最後に本当のハルを知ることができたら、もう1度読み返したくなるはず。

